

前章の事例研究をもとに、三つの観点から青少年の体験活動・ボランティア活動支援に関する改善充実の方策について考える。

#### 1 学校や関係団体との連携を図るためのコーディネーションの方法

学校や関係団体、さらに企業やNPOなどとの連携を進めれば、より充実した体験活動やボランティア活動の場、時間、種類、内容等を青少年に提供できると考えられるが、ここでは、連携を図るためのコーディネーションの方法として、スムーズに連携を進めるためのコーディネーターの役割、そして一つの活動が実施されるまでのコーディネーションの流れ等について述べることにしよう。

##### (1) コーディネーターの役割

###### ☆ 受けとめる

「青少年の体験活動やボランティア活動を支援をしたい」と考えている人、関係団体、学校、企業、NPO等の思いや願い、「こんな活動がしたい、させたい」という子どもたちや親、学校等の思いや願いを受けとめる。

また、活動内容の相談や活動後の感想等についても受けとめ、必要に応じて励ましたりアドバイスしたりする。

###### ☆ 知らせる

受けとめた支援者の思いや願い、それに参加する子どもたちや親、学校の思いや願いを、広く他の支援者や子どもに伝える。たとえば、支援者から得た活動内容などの情報を広報紙等を使って、子どもや学校に伝えるとともに、他の支援者にも伝えたり、子どもや学校の思いや願いを支援者に伝えることなどである。

###### ☆ つなぐ

活動目的や内容、場所などの条件から考え、協働していっしょに活動をつくり上げていくことで、よりよい活動になる支援者同士をつなぐ。たとえば、個人で活動している人に連携できそうな支援者を紹介する、連携できそうな支援者同士をつなぐための調整をする、学校に支援者を紹介しつなぐための調整をすることなどがある。

###### ☆ 育てる

支援者が、よりよいものを提供できるよう、研修会等の学ぶ機会を提供する。

たとえば、青少年の体験活動・ボランティア活動に関する研修会の企画と実施、支援者と参加者との交流会の実施、支援者として活動することで市民としての自覚を育てることなどが挙げられる。

(2) コーディネーションの流れ（1つの活動が実施されるまでの例）

